

5-1 東海・南関東地域の地震活動（1989年5月～10月）

Seismic Activity in the Tokai and Southern Kanto Districts (May–October, 1989)

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division

Japan Meteorological Agency

第1図(a)～(f)は、1989年5月～10月までの東海・南関東地域における地震の月別震央分布であり、第2図(a)・(b)は1989年5月～7月と同年8月～10月の3カ月間ごとの地震の震央分布、第3図は1989年1月～6月までの半年間における地震の震央分布である。いずれも震源の深さは90km以浅の地震についてまとめたものである。

この期間、東海地域では特に目立った活動はなかったが、周辺域では伊豆半島東方沖で2回の群発地震活動があった。5月21日～6月12日（最大地震M2.4・5月24日）と6月30日～9月28日（最大地震M5.5*・7月9日）で、後者の活動はきわめて顕著であったが、さらに微動の発生や海底火山の噴火が加わった。また、10月14日に伊豆大島近海（北東沖）でM5.7*の地震が発生し注目された。これらの活動についてはそれぞれ本巻別項で述べる。各地の主な活動は次のとおり

<東海地域>

地震活動に特別大きな変化はないが、昨年後半から、東海地震の想定震源域とその付近では、9月4日のM3.3を除いて、M3.0以上の地震発生がみられず、活動の推移が注目されていた。しかし、本年7月に入って以降10月までに5個の地震が発生した。いずれもM3クラスで静岡県中部（下記）。この詳細については別項で述べる。

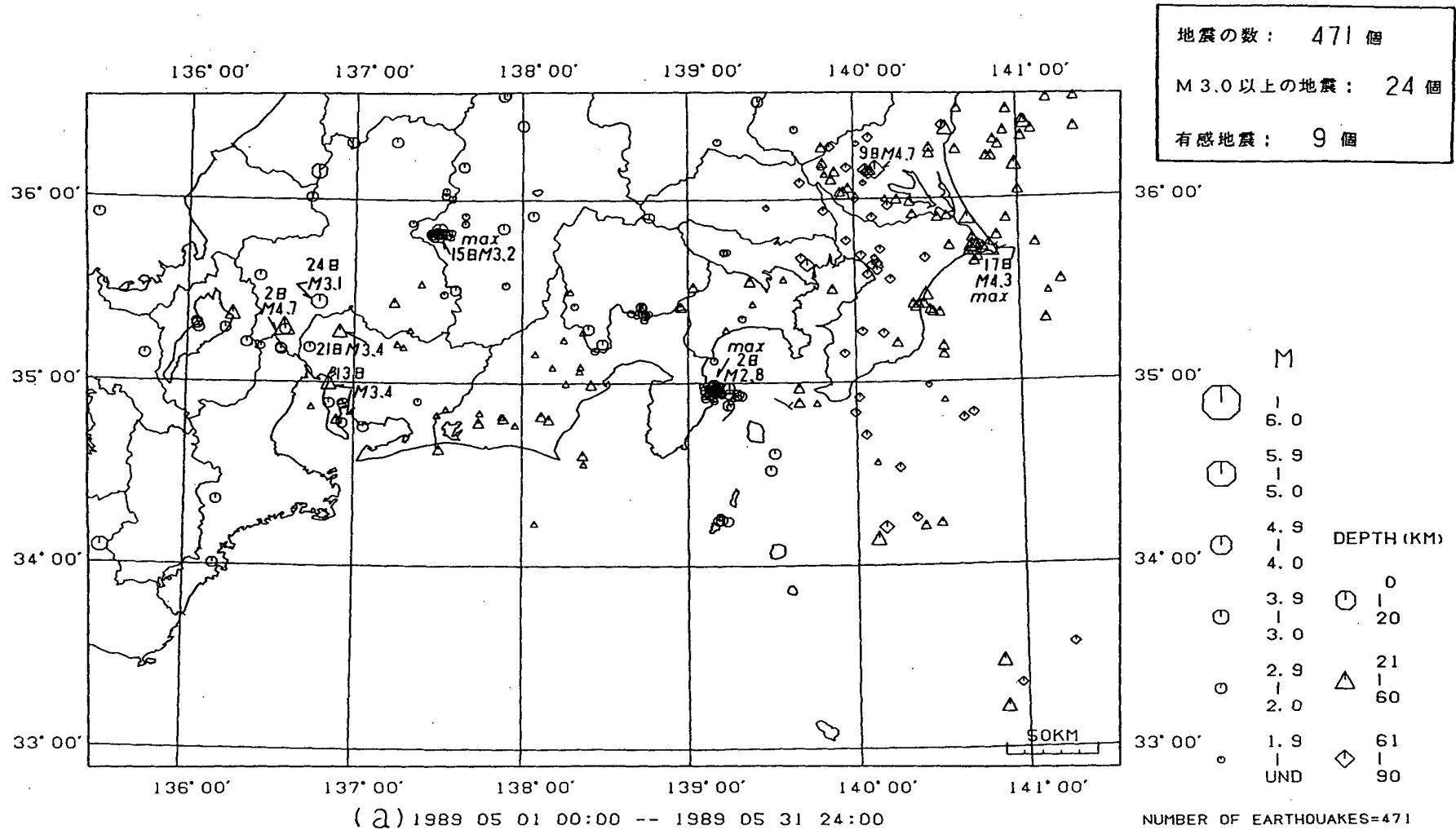
目をひく主な地震を列記すると、静岡県中部の7月23日のM3.1・8月19日のM3.7*・9月24日と28日のM3.1・10月14日のM3.9*、東海はるか沖の8月23日のM3.2・9月7日のM4.3*・10月1日のM3.0、愛知県の5月13日（西部）と21日（北西部）のM3.4*・6月29日のM3.3（西部）・7月14日のM3.5*（伊勢湾）と26日のM3.4*（北西部）・8月8日のM3.5*（北西部）・9月14日のM3.2（東部）・10月24日のM3.5*（西部）、三重県の9月12日のM3.3（南部沿岸）などである。なお、8月10日～20日にかけて、静岡市の西方十数km付近で活動がやや活発化し、16個の地震が震源決定されたが、上の8月19日のM3.7（静岡県中部）はこの最大地震である。

<東海地域周辺>

はじめに述べた伊豆半島東方沖の5月21日からと6月30日からの2回の群発地震及び10月14日の伊豆大島北東沖の地震（M5.7）のほか、注目された主な地震（M5.0以上）は、茨城県沖の8月26日のM5.2*、八丈島東方沖の7月30日のM5.5*。また、目をひいたものとしては（M4.0以上）、5月では岐阜県南西部の2日のM4.7*、銚子付近の17日のM4.3*、茨城県南部の9日のM4.7*、6月では勝浦付近の12日のM4.4*、7月では神奈川・山梨県境の1日のM4.4*（この後2日24時まで余震が11個）・八丈島東方沖の26日のM4.1*、8月では八丈島東方沖の4日のM4.1と6日のM4.9*及び30日のM4.2、9月では千葉県中部の5日のM4.6*・八丈島東方沖の24日のM4.2*、10月では千葉県中部の10日のM4.8*・奈良県南部の28日のM4.0*の地震などである。なお、5月12日～26日にかけての富士山付近の地震活動活発化も目をひいた。17個の地震が震源決定されたが有感地震は

なく、深さは9~20km。最大地震はM2.1で深さ9km。

注：M値に*印を付した地震は、有感（気象官署）となった地震を表わす。

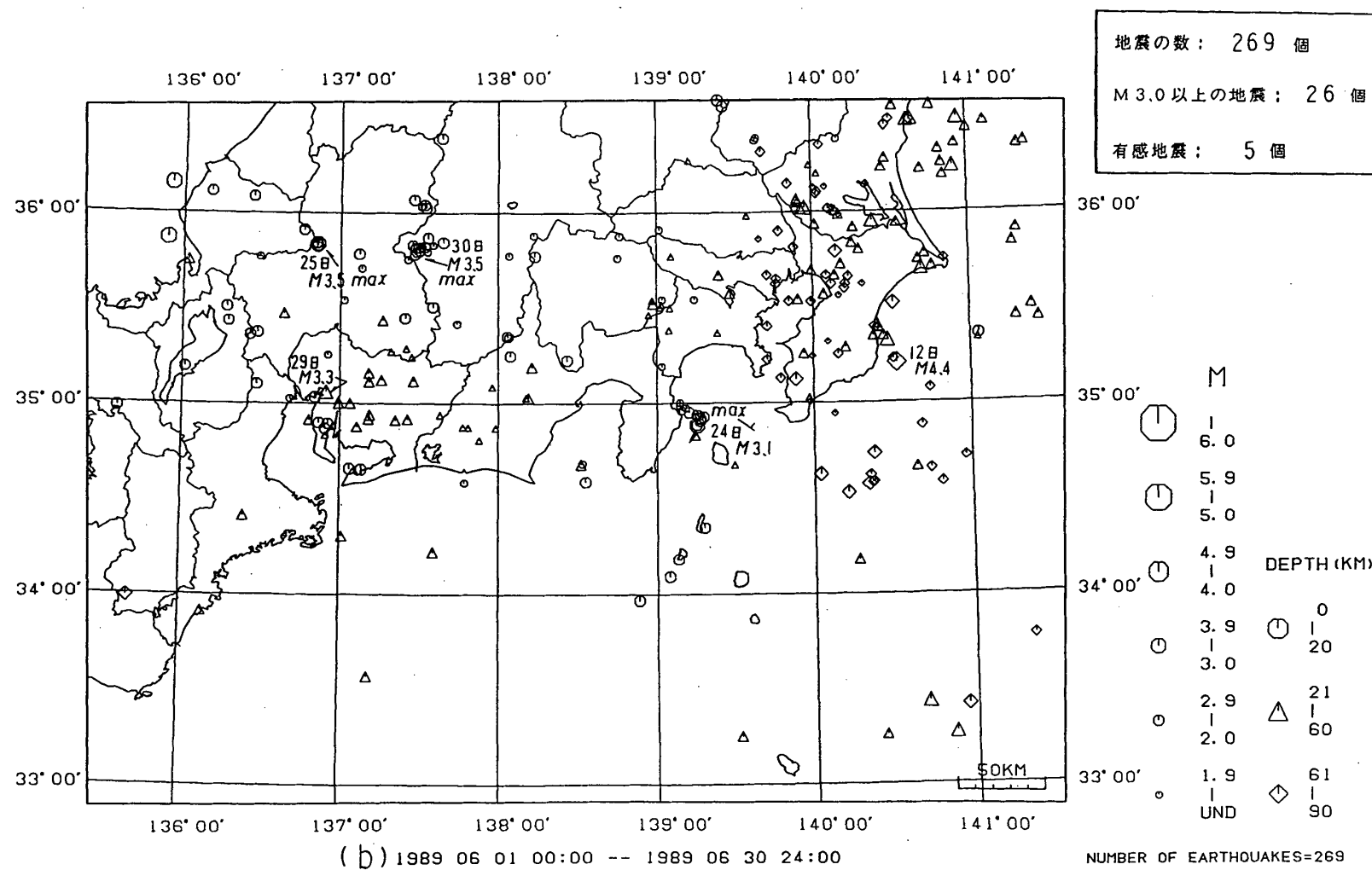


暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第1図 (a)~(f) 東海・南関東地域に発生した地震の月別震央分布 (1989年5月~10日)

Fig. 1 (a)~(f) Earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts, May - October, 1989.

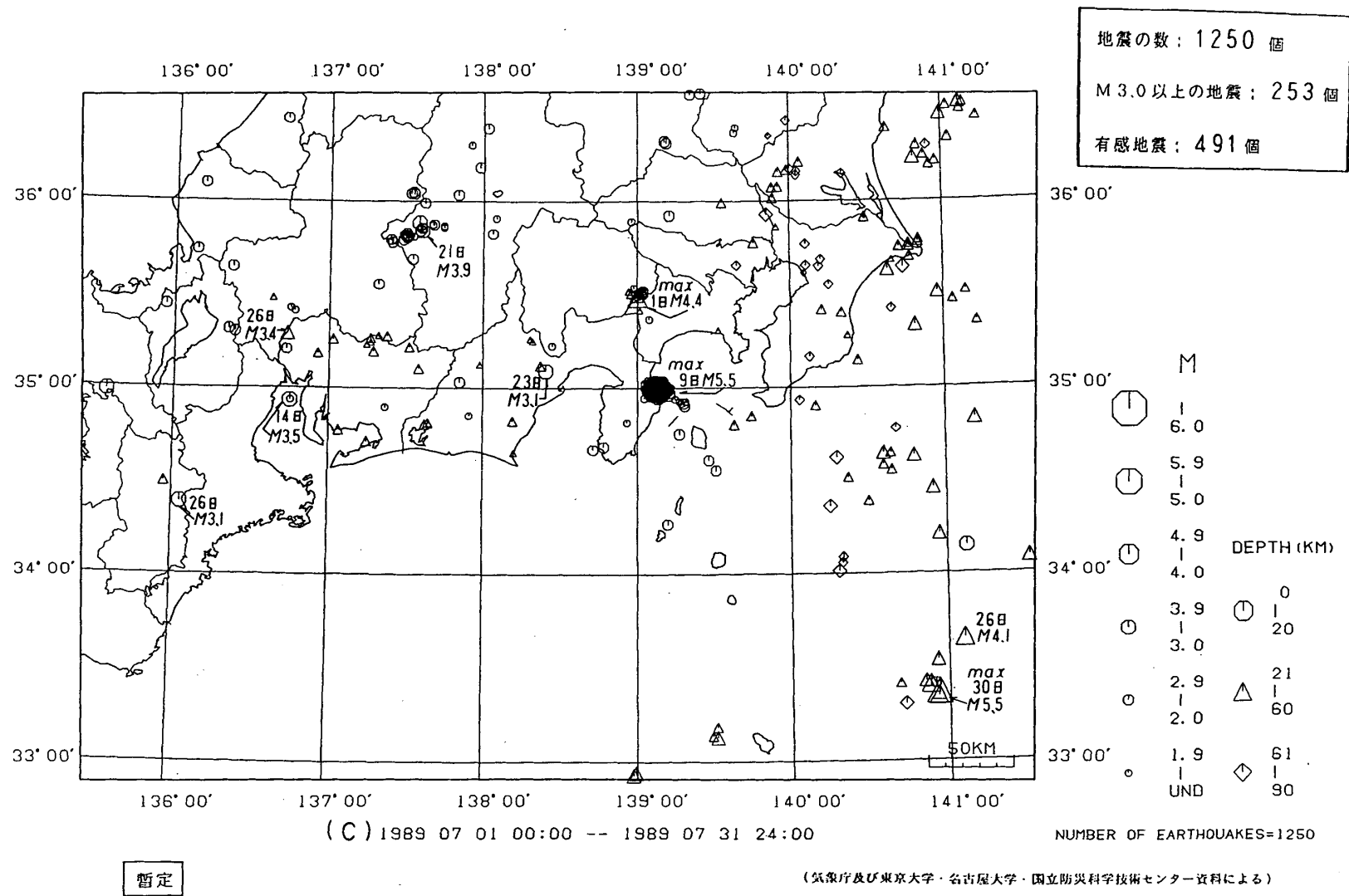


暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

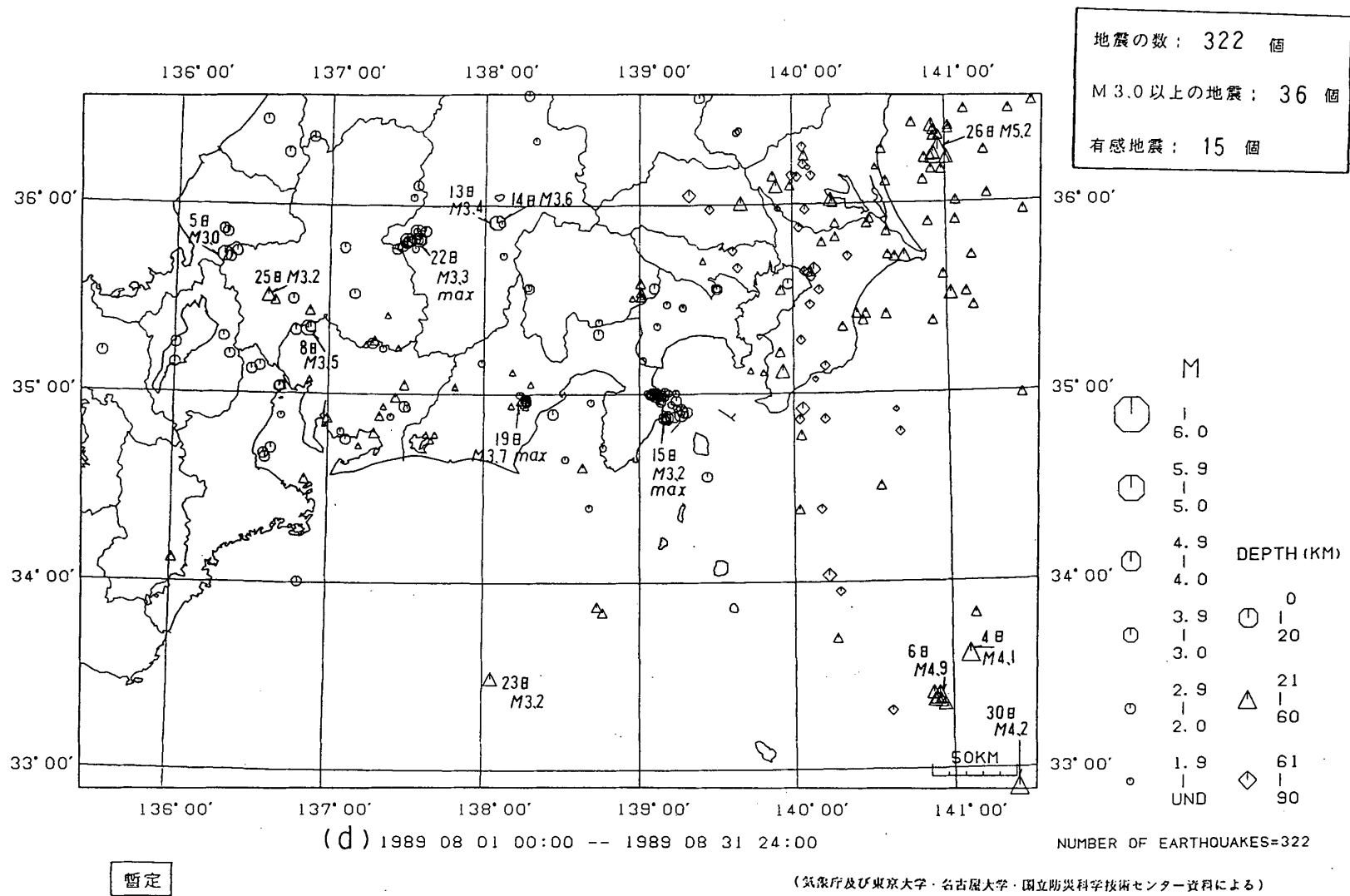
第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



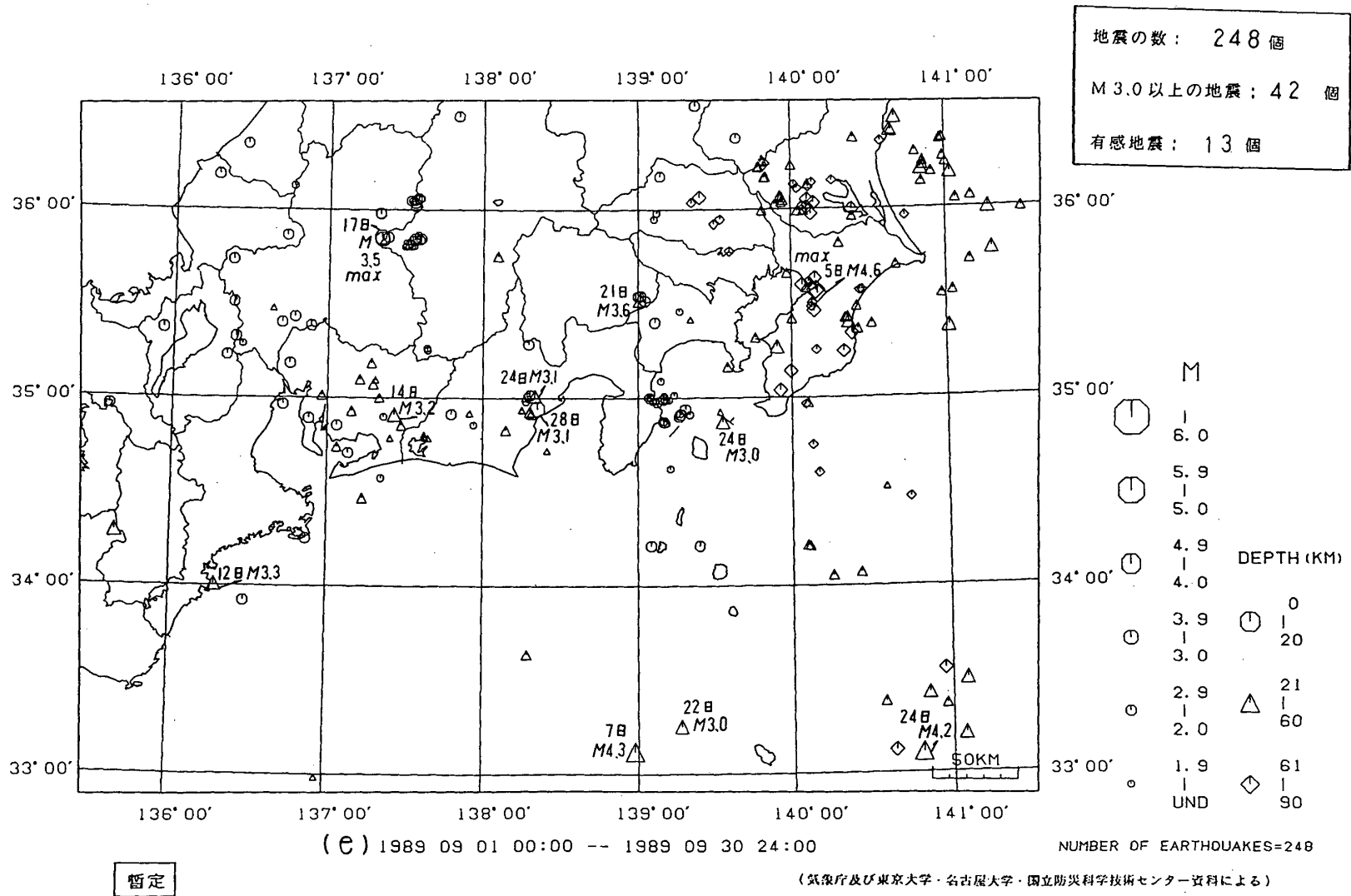
第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



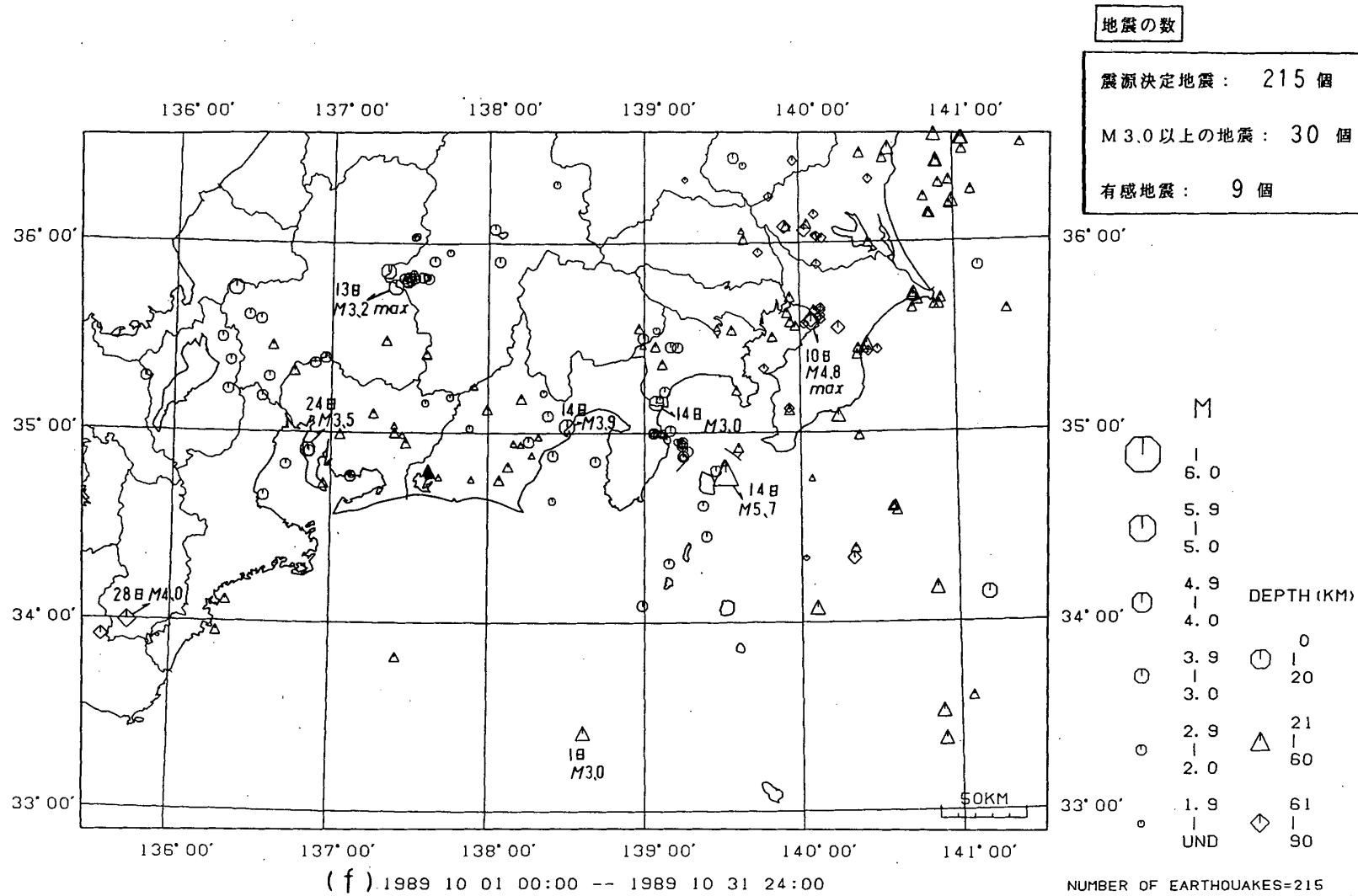
第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

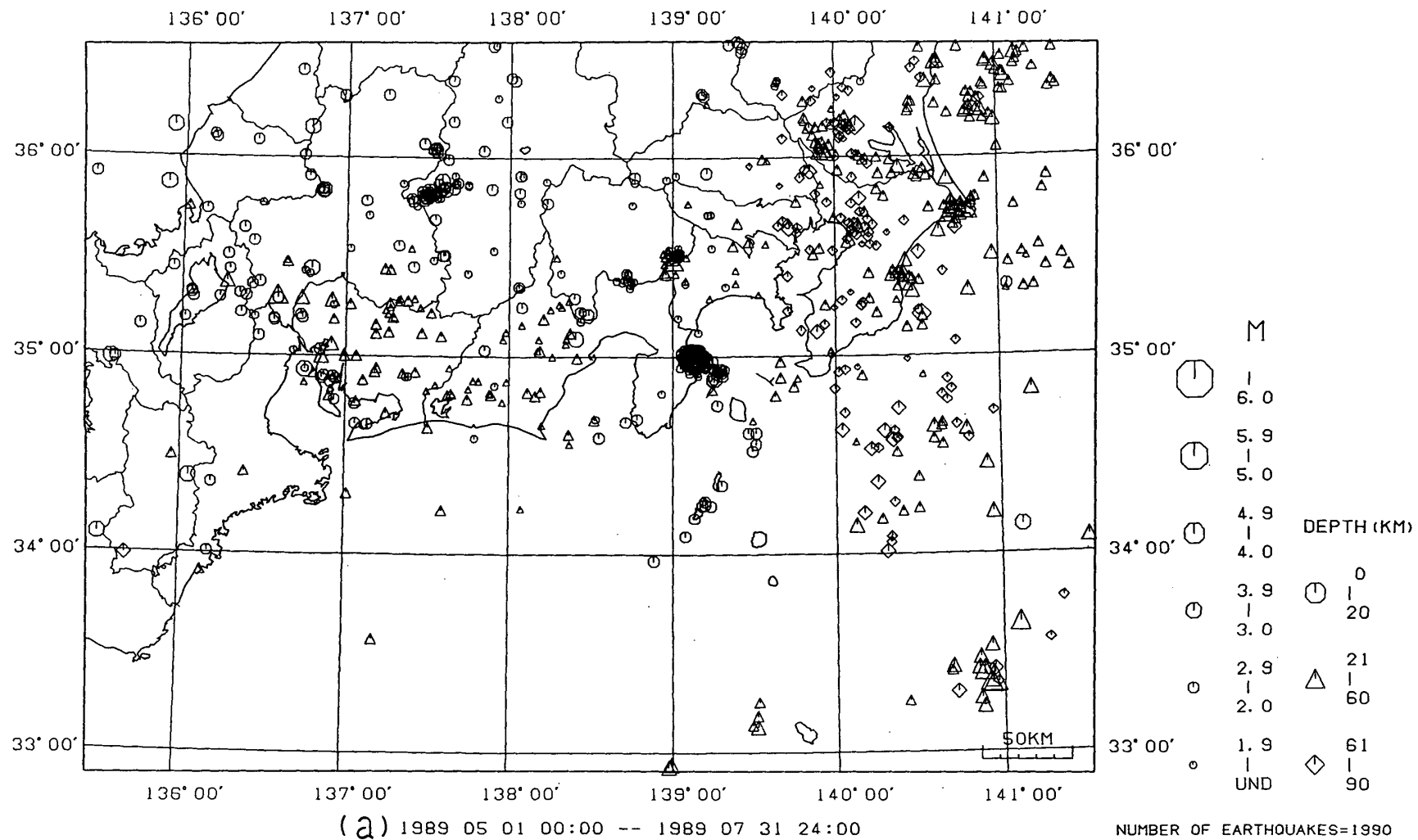


暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

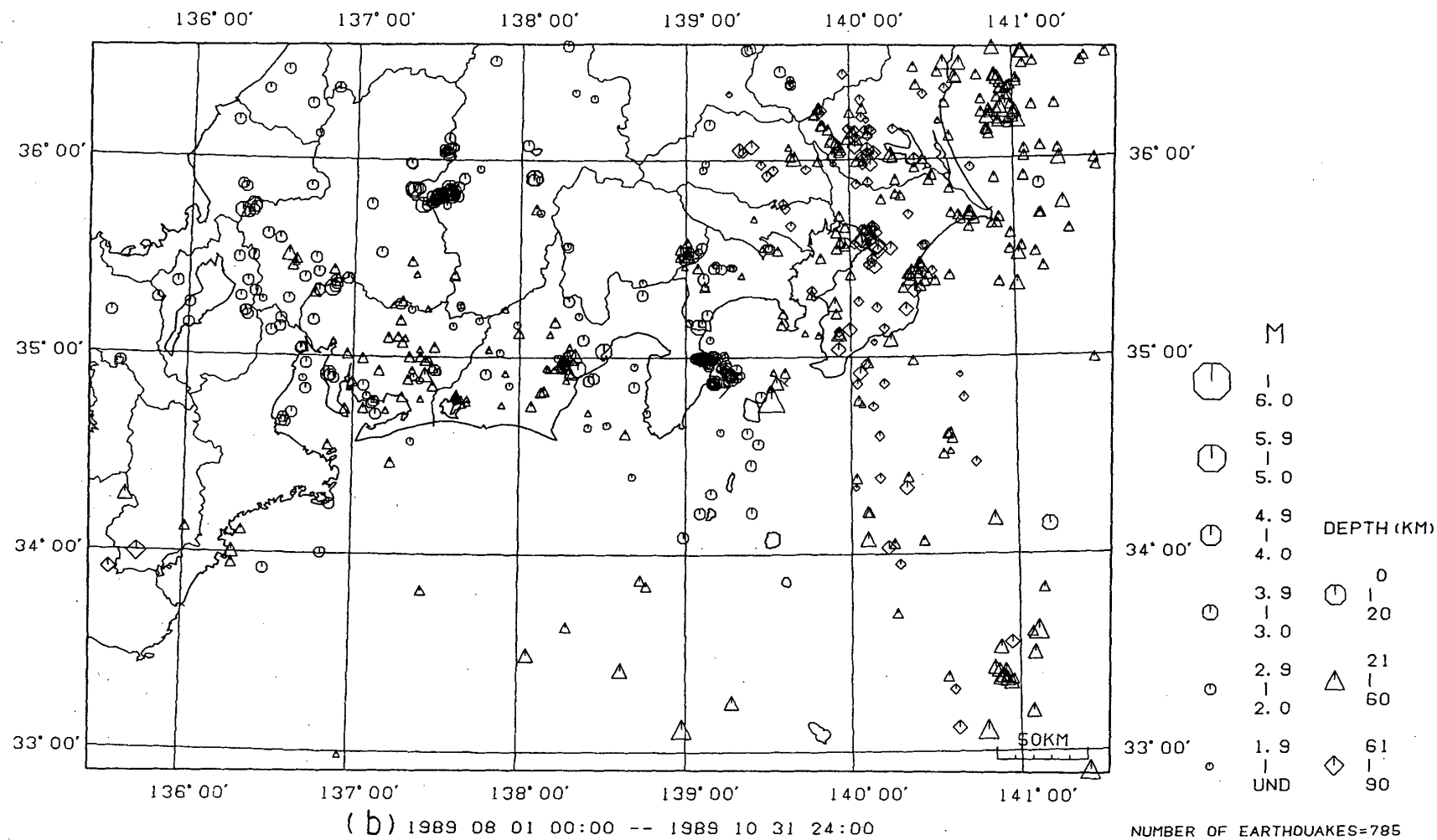


暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第2図(a)・(b) 東海・南関東地域に発生した地震の3カ月毎の震央分布(1989年5月～7月・8月～10月)

Fig. 2 (a)・(b) Earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts in for (a) May – July and (b) August – October, 1989.

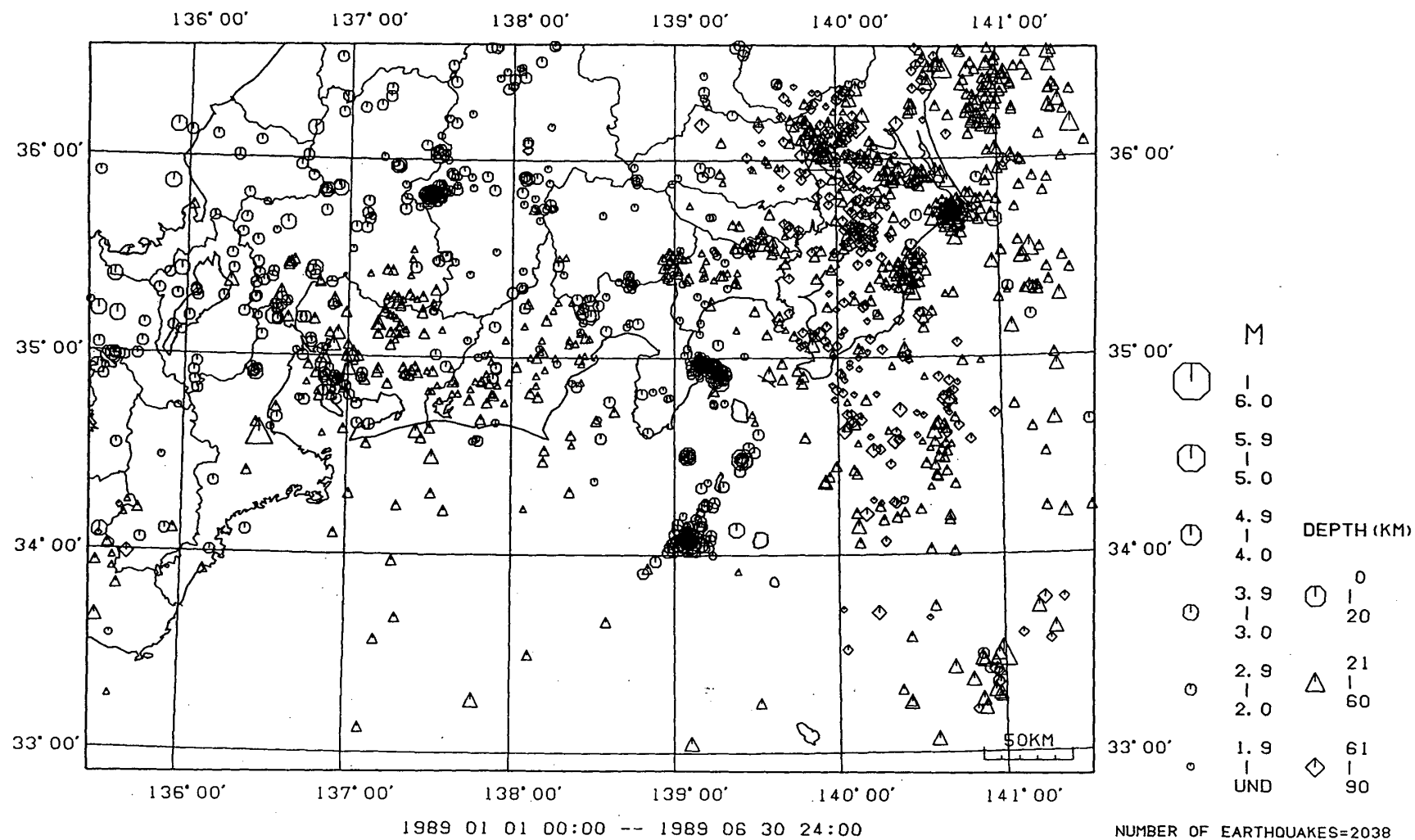


サントリー

(気象庁のほか東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センターのデータ使用)

第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)



暫定 : '89.3.1----

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第3図 1989年1月～6月の東海・南関東地域に発生した地震の震央分布

Fig. 3 Earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for January – June, 1989.